

## 選考委員賞

### 自然と共に生きる

赤羽小学校 小原 里咲

「ん、苦い」

庭でとれたばかりのニガウリをかじると、口の中いっぱい、何とも言えない苦みが広がりました。私の顔はクシヤクシヤにくずれ、口もゆがんだままです。見た目はつやつやで、こい緑色が輝き、美味しそうだったのに。

私は、学校の長い休みを利用し、毎年大阪、神戸の祖父・母達に会いに行きます。夏にニガウリの実を育てていたのは、神戸の祖父。庭には、たくさんの木や花が植えてあります。ひのき、きんもくせい、かし、かえで、びわ、みかん、梅などの木は、三十年以上も前に植えたそうです。私の背丈を軽くこえた木もあれば、足元にたたずむように生きている木もあります。木には仲間がいて、ちようちよや虫、小鳥がおとずれます。庭で木に触れ、土をいじると、ケンカしたことや嫌なことを忘れ、優しい気持ちになりました。

夏の一番収穫は、やはりニガウリです。ニガウリを育てる目的は緑のカーテン作りで、節電対策につながります。私も四月から、東京の自宅ベランダでニガウリを育てまし

た。一粒の種が大きく成長する様子を観察、記録しました。種の発芽、水やり、苗床作り、肥料など毎日世話をすると愛情がわきます。まるで自分の大切な人、小さな弟や妹のように可愛がり、少しずつ成長する姿がいとおしくなりました。

夏の終わりと共に、大切に育てたニガウリは黄色くなり、赤い種をこぼして、枯れてしまいました。秋になると、森や木、植物は赤や黄、夕日の色に変わります。一本一本の木が、まるで、おしやれをしたかのように。木には不思議な力があります。誰から教わるわけでもなく、四季により色や姿を変え、毎年変わらず成長していく。私達人間と同じように生きているのです。

地球上で共に生きるもの同士、自然も人間も仲良くしなければなりません。お互いに助け合い、思いやる必要があります。私は、自然を大切にし、思いやる行動について考えました。花や草、木、森が小さな芽から大きく成長しやすい環境を作ることです。きれいな水や汚れない空気があれば、植物は喜んでくれるはずです。そこでまず、身近な暮らしの中で努力していこうと思えました。食事後、お皿の汚れをふき取り洗う。外出では、車中心の移動をやめ歩く。有害物質を分別してゴミに出すなど。

緑を育て、木々に親しんだことで、私は相手を思いやる気持ち、あたたかい心、収穫の喜びを体験できました。この素晴らしい体験を、将来へも伝えていきたいです。私達の住む地球が、いつまでも緑豊かなままできてほしい。そ

う願いながら、日々の暮らしで環境を守る行動をしていきます。そして、一本の木と同じように、私も少しずつ成長しながら生きていきたいです。